

R4 授業実践シート～指導と評価の一体化を目指して～

教科等	算数	単元名	20までの数（A 数と計算 小学部3段階）		
学年	□年	児童名	□□□□	指導者	□□□□
目 標	知・技	・100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。			
	思・判・表	・日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。			
	学	・数量の違いを理解し、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。			
評 価 規 準	知・技	・5や10のまとまりを作って、20までの数を答えることができたか。			
	思・判・表	・5や10のまとまりに着目して、数の数え方について考え、学習や生活に生かすことができたか。			
	態	・5や10のまとまりにして数えるよさに気づき、身の回りの具体物の個数を進んで数えようとしたり数字で表そうとしたりすることができたか。			
<p>㊦ どんな授業にしていけるの？（どんな力をつけるために、どのような授業づくりをするか）</p> <p>☆学習や生活の中で身の回りの数の数え方を考えて表現する力が付く授業。 ☆10以上の数は、おおよそ捉えられているが、これからより大きな数を理解するために、まとまりとして数を捉えることができるようになることよ。 ・限定枠や自由枠、10までの数、20までの数を組み合わせて段階的に行う。 ・バラタイルを操作して、数量が実感できるようにする。 ・数量が捉えられるようにタイルを数えながら、手話で数を示していく。</p>					
<p>㊧ 指導と評価の実際① 日付：R4年9月20日</p>					
◎ 評 価 基 準	知・技	・限定枠を用いて5や10のまとまりを作って、数を答える。	◎		
	思・判・表	・タイルの数に応じて5や10の限定枠を選び、まとまりを意識して数を数えようとする。	◎		
	態	・具体物や半具体物を操作し、教師と確かめながらまとまりを正確に作りながら数を捉えようとする。	○		
<p><児童の様子></p> <p>・限定枠を用いるとバラのタイルを入れながらまとまりを作り、まとまりの数から数え始めて、数を答えることができた。 ・自由枠になると、5や10を正確に捉えることができず、間違えることが多い。 ・数を捉え違うため、5と10どちらの枠を用いれればよいかわからない様子が見られた。 ・教師が指さしながら手話で示すことで正確に数え、間違ったことに気付くが、直そうと一から始めると数え間違える。</p>					